

## 巻頭言

信州大学附属図書館長

渡邊 匡一

『信州大学附属図書館研究』第5号をお届けします。

本号も、石井鶴三に関わる論考を7本掲載することができました。創刊号から合わせて35本となります。石井鶴三に関わる資料約30000点を寄贈していただいた責任を、学内外の研究者による共同研究の成果という形でお返しできることは、附属図書館長として望外の喜びです。

石井鶴三と同様に、本館に寄贈していただいた、日本有数の山岳コレクション「小谷コレクション」については、すでに近世(江戸時代)の和古書・古地図を中心に電子化を行い、「近世日本山岳関係データベース」として公開していますが、今後は、コレクションの核ともいべき18-19世紀の洋書についても、電子化・公開を進め、日本はもとより、海外の研究者にも利用していただきたいと考えています。

信州大学には、他にも、多湖文庫、藩文庫、長野師範・長野松本女子師範学校蔵書などの貴重コレクションが所蔵されています。

多湖文庫は、松本藩戸田家の家臣として、代々藩校崇教館の教授を務めた多湖家に伝った蔵書と古文書です。山本英二先生(人文学部)、鈴木俊幸先生(中央大学)を中心に行われた研究の成果は、『信州松本藩崇教館と多湖文庫』(新典社研究草書266、2015年2月)としてまとめられました(目録付)。

藩文庫は、長野県下の藩校(高島・飯田・松本・竜岡)の蔵書124点(1180冊)です。昨年度から、白井純先生(人文学部)、速水香織先生(同)を中心に、目録の見直し作業が行われています。また、来年度は、理学部の先生方のご協力もいただき、学生向けに「研究の手法を学ぶ」ワークショップを開く予定です。

長野師範・長野松本師範学校蔵書については、図書館で目録整備を始めることとなっています。

昨年10月より、附属図書館長に着任いたしました。「学術情報・資料を整備して教育・研究の活動及び学習に資する」ために、今後とも努力していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

平成28年1月